

県会社の たより

第23号

発行 神奈川県住宅供給公社

団地と地域の魅力づくり

二宮国際こども音楽祭 開催!

今年で3回目となる二宮国際こども音楽祭が、平成30年10月6日、二宮町の生涯学習センター ラディアン（神奈川県中郡二宮町二宮 1240-10）にて開催されました。この音楽祭は、当公社が二宮団地再編事業の一環として推進する「団地と地域の魅力づくり」のための活動です。



▲小学生チェロ奏者・藤原寛太さん。

今回は、国内若手音楽家に加え、上海音楽学院附属中等音楽専科学校の生徒8名が来日し、中国民族楽器などの演奏を行いました。また、地元二宮の老若男女約80名が集まったやまゆり合唱団、同じく二宮の小学生チェロ奏者・藤原寛太さんが出演し、会場を大いに盛り上げました。

会場となった生涯学習センターには図書館があり、また裏手には花の丘公園の芝生が広がっています。散策路や遊具もありますので、イベントや読書を楽しんだ後、公園をピクニックすれば家族で一日楽しめるかもしれません。

二宮町での団地と地域の魅力づくりについては、下記URLをご覧ください。

湘南二宮 さとやま@コモン <https://www.nino-satoyama.com/>



▲中国民族楽器を演奏する上海音楽学院附属中等音楽専科学校の生徒。



▲生涯学習センター（写真中央建物）と花の丘公園。



▲出演者らによる記念撮影（青いポロシャツを着ているのは、やまゆり合唱団の方々）。

インターネットからは「会社の賃貸」で検索！

<http://www.kousha-chintai.com>

会社の賃貸

検索



防災特集



災害には様々なものがありますが、中でも一番恐ろしいものは巨大地震です。揺れそのものによる被害に加え、火災や津波などが発生する場合もあり、災害の連鎖を生み出します。巨大地震が発生する可能性を持った日本で暮らす私たちは、いつ来るかわからない地震にどのように対処すればいいのでしょうか。今回は防災特集として、主に地震に対する備え、発生したときの対処などを考えていきたいと思います。

危険を知る

地域の危険

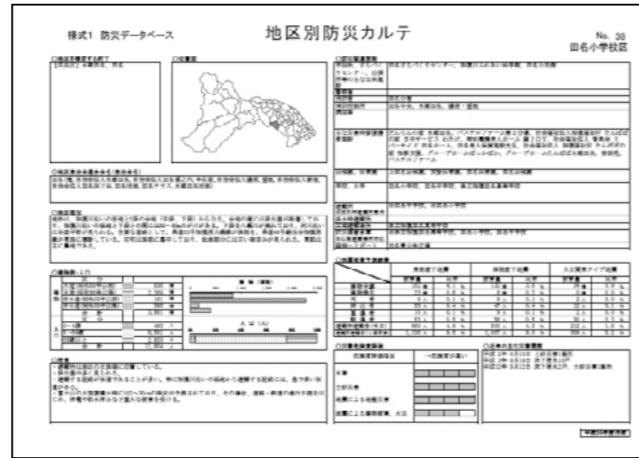
防災を考える上で大切なことは、どのような危険に自分や家族が接しているかを知ることです。例えば、海の近くに住んでいれば津波の危険がある、というのは分かりやすいですが、その他にも洪水、土砂崩れ、落雷、台風など、住んでいる地域、働いている地域、通勤・通学で通る地域には、それぞれ危険が潜んでいます。その危険を知ることが、防災の第一歩です。

地域の危険を知るための有効な手段は、自治体で作成している防災マップです。これはインターネットが使えればすぐに入手できますし、役所などに行けば入手できるはずです。例えば、大和市の防災マップは単なる地図ではなく、防災のための情報が豊富に掲載されています。そして、地図は水害が発生した際の避難方向が一目でわかるようになっています。



大和市が提供している防災マップ
<http://www.city.yamato.lg.jp/web/bousai/map.html>

また、相模原市の地域別防災カルテは、地域の災害特性を知るのに役立ちます。



相模原市が提供している防災カルテ
<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kurashi/bousai/1008688/1008780/index.html>

このように、それぞれの自治体は創意工夫をし、防災情報を発信しています。一度、あなたの地域の防災情報を確認してみましょう。

※ カラーページ裏面に掲載している「逃げ地図」は、地域の危険を知る有効な手段のひとつです。

住まいの危険

危険は家の中にも潜んでいます。タンスが倒れる、物が落ちる、割れたガラスの破片を踏む……。家の中をよく見まわし、大きな揺れが起こったらどうなるかを想像することが住まいの危険を知る第一歩です。参考までに、東日本大震災を体験された方の意見にこのようなものがありました。「家は大丈夫だけど、物が散らかって寝る場所がない。だから避難所に来ている」というものです。つまり、地震があっても家の中の物が散らからない工夫をすれば、自宅で過ごすことができたかもしれない、ということです。

住まいについて、これだけはチェック！

- 倒れるものはないか
- 落ちるものはないか
- 揺れで動くものはないか

※ 住まいのすべてに対策を行うのは大変です。まずは寝室として利用する部屋を見直し、安全な空間になるように対策を行いましょう。それができたら、次は避難経路の確保です。玄関への経路を見直しましょう。日々の整理整頓は、防災活動の一環となります。

防災への備えをチェック

防災への備えを点検するためのチェックシートは、さまざまな自治体や団体、識者が公開していますので、それらをぜひ活用していただきたいのですが、ここでは、最低限これだけは確認しておきたいものを整理してみました。

なお、防災への備えは家庭の状況によって異なります。妊娠している、乳幼児がいる、要介護者がいるなど、それぞれの世帯のご事情に合わせていざという時の準備をしましょう。

- 避難場所と経路**
自分の地域の避難場所を確認しておきましょう。また、避難場所までの経路を一度歩いてみて、危険な場所がないか確認しておきましょう。
- 安否確認方法とその使用方法**
例えば、災害用伝言ダイヤル「171」の使用説明書
- 備蓄品・非常用持出品**
 - 携帯ラジオ
 - 懐中電灯
LED ライトの方が電球切れの心配が少ないです。
 - 予備電池・モバイルバッテリー
 - 連絡先メモと 10 円玉複数
携帯電話のバッテリー切れなどで、連絡手段と連絡先が分からないとき、公衆電話と連絡先を記したメモが役に立ちます。
 - 飲料水
 - 非常食

※ 季節によっても備えは変わります。夏は熱中症対策が必要でしょうし、冬は防寒対策が必要です。いろいろな場面を想像して災害に備えるとともに、季節ごとの見直しを行いましょう。

※ 賞味期限や使用期限があるものは、ローリングストック法が有効です。これは、少し多めに購入し、使った分を買い足すことで常に一定の備蓄と、備蓄品の賞味期限などを保つための方法です。



※ リュックサックなどの非常用持出袋は、一度は必ずしよってみて、ある程度の距離を歩いたり、小走りしてみたりしてください。重すぎたり、荷物がずれたりすると歩行の妨げになります。いざという時、思わぬことが避難の妨げにならないよう、事前に確認しておきましょう。

※ 一人で避難できるか心配、という方は、まずは自治体に相談しましょう。

※ 団地の防災の要は団地自治会です。団地自治会に加入して、互いに助け合える体制を築きましょう。



NHK が提供している防災グッズ家庭用リスト
<https://www.nhk.or.jp/sonae/goods/index.html>

被災したら

心のケア

被災直後は、その経験について家族や近隣の人たちと話し合いましょう。こうすることで、心的外傷を緩和できるとの説があります。共感し合うことで、心は癒されるそうです。

デマに注意

残念なことに、被災地にはデマが流れることがあります。特にインターネットの情報には注意が必要です。さまざまな判断は、自治体などが発信する信頼できる情報により行ってください。

損害保険

損害保険に入ることによって、災害などによって壊れた家財について保険金を受け取ることができます。火災保険や住まいの総合保険、さらに地震保険があります。一度検討してみたいかがでしょうか。
(4面へ続く)

居住者からの相談、陳情、苦情、退去受付等のお問い合わせは下記管理会社へ。

横浜若葉台にお住まいの方

(一財)若葉台まちづくりセンター ☎ 045-921-3361
 FAX 045-921-3365

水曜・祝日を除く 8:30 ~ 17:30。それ以外の緊急時は防災センターが対応します(☎は、まちづくりセンターと同じ)。

横浜若葉台以外の団地にお住まいの方

(一社)かながわ土地建物保全協会の各サービスセンター

川崎	☎ 044-511-2500 / FAX 044-522-9405	湘南	☎ 0466-43-7731 / FAX 0466-43-7734
横浜北	☎ 045-933-0593 / FAX 045-932-4865	県央	☎ 046-251-2901 / FAX 046-255-6819
横浜南	☎ 045-778-4425 / FAX 045-778-4428	西湘	☎ 0463-71-1839 / FAX 0463-73-0428

夜間、土・日曜、祝日は、緊急連絡センター☎ 045(212)1889 へ



いざという時の応急対応

ケガなどの応急処置の基本

- ・切り傷：傷口が泥などで汚れている場合は水で洗い流します。出血が多い場合には、清潔な布で少し強く押さえて止血します。
- ・火傷：流水で患部を冷やします。
- ・骨折：出血している場合はその止血。負傷した箇所を動かさないようにし（できれば固定）、痛みがある場合には冷やして和らげます。

消毒液の作り方

塩素系漂白剤を水で薄めることで消毒液を作ることができます。ふきんや食器の消毒、おう吐物や排せつ物などで汚染された場所の消毒などに使用できます。代表的な作り方を簡単に紹介します。

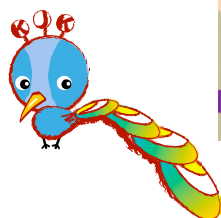
- ① 1リットルのペットボトル容器を用意します。
 - ② ペットボトルに水を1リットル入れ、さらにペットボトルのキャップを使って塩素系漂白剤を次の分量入れます。
 - ・ふきんや食器を消毒する場合・・・キャップ2杯
※10分以上つけ込んでから水洗いする。
 - ・おう吐物や排せつ物などで汚染された場所を消毒する場合・・・キャップ4杯
- ※ 誤飲したり、肌に直接触れたりしないように注意しましょう！
- ※ 自作消毒液についての詳細な情報は、インターネットや書籍でご確認ください。



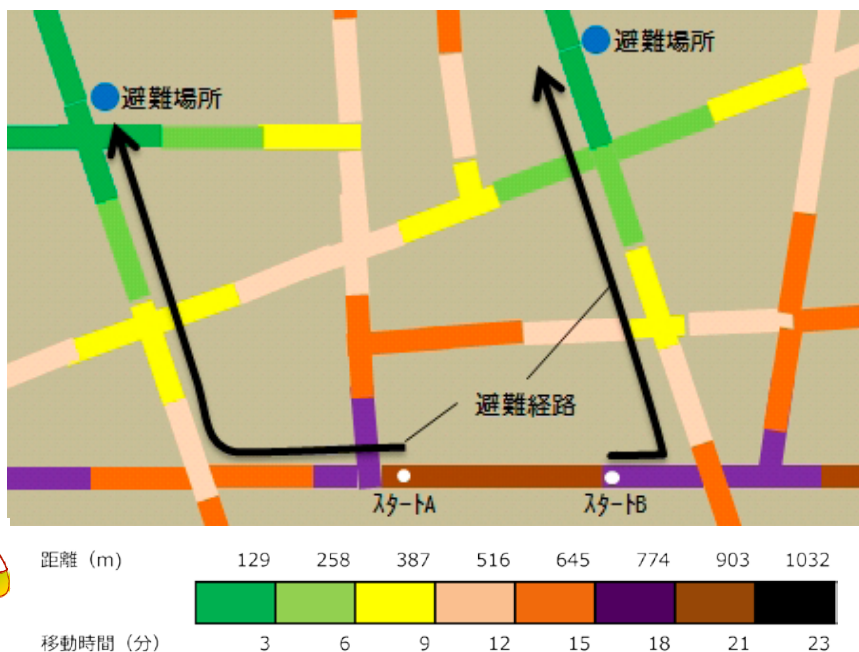
逃げ地図をつくろう！

「逃げ地図」をご存知でしょうか？ 逃げ地図とは、避難場所までの徒歩での移動時間を右図のように色分けし、地図上に示したものです。この逃げ地図により、どこを通れば早く避難所などに逃げられるかが一目でわかります。また、逃げ地図の作成過程を通じて、地域の危険を認識したり、防災について話し合ったりすることができ、防災教育の教材としても大変優れています。

家族で、あるいは自治会で、一度逃げ地図を作成してみたいかがでしょうか。



逃げ地図の詳細は、下記インターネットホームページなどを参照してください。



逃げ地図ウェブ
<http://nigechizu.com/>

一般社団法人
子ども安全まちづくりパートナーズ
<https://kodomo-anzen.org/>

県公社のたより

第23号 2018年11月16日発行

次回・第24号は
2019年5月発行予定です

バックナンバー（過去発行号）は
当会社ホームページからご覧いただけます。
<http://www.kanagawa-jk.or.jp/residents/>

【企画・編集】

神奈川県住宅供給公社

「県公社のたより」担当

〒231-8510 横浜市中区日本大通33番地
☎ 045(651)1864 FAX 045(671)0905
営業時間 平日 8:30～17:30

《E-mail》 tayori@kanagawa-jk.or.jp

広告



東京海上日動

〒220-8565 横浜市西区みなとみらい3-6-4(横浜中央支店・金融公務課)
TEL:045-224-3519 FAX:045-224-3520

【広告主さま募集中！】

県公社のたより（発行部数14,000部、年2回発行）に広告を掲載しませんか？
ご興味のある方は、「県公社のたより」担当（☎045-651-1864）へお気軽にお問い合わせください。